

誘致の正念場を応援

みちのく共生会 推進協に10万円寄付

みちのくコカ・コーラボ



東北誘致



谷村邦久会長に目録を渡す角川裕彦部長（左）

トリング（矢巾町、谷村広和社長）の取引会社134社で構成するみちのく共生会（会長・三木啓史東洋製罐グループホールディングス名誉会長）は9日、県国際リニアコライダー推進協議会（谷村邦久会長）に10万円を寄付した。

盛岡市内のホテルで、東洋製罐の角川裕彦北日本販売部長が谷村会長に目録を手渡した。

共生会は2013年から毎年寄付を続けており、角川部長は「国際リニアコライダー（ILC）誘致は正念場で、絶大な協力が必要だ。一歩進んだ時代をみんなで迎えたい」と語った。谷村会長は「誘致活動のスピードを緩めることなく

最後まで全力を尽くす。状況は楽観視できないが、希望を持ってやっっていく」と述べた。

県立天の鈴木厚人学長が講演し、ILCの意義や誘致活動の状況を説明。政府の誘致判断期限が年内とされる中で「実現へのカウントダウンは始まっている」とし、全国に理解を広げる必要性を訴えた。